



うけつがれる
とぎすまされた所作の美



◀八幡社の今年の射放士は
高校1年生。口伝えでの
指導が受け継がれていく
という。
(9/12八幡社で撮影)

▲昨年のおよす (八幡社)

しゃほうきゅう
射放弓

高浜市の秋の風物詩のひとつ、射放弓は、毎年10月の第2土曜日に八幡社(八幡町)で、翌日曜日に神明社(芳川町)で行われる神事である。「吉見喜左衛門」という人物による「お墨付き」が存在し、「万治二年」とあることから約350年前から続くと考えられ、各地にある弓を用いた行事のなかでも、珍しい形式であるという。裱に大小の刀を差した武者姿の若者が、厳しい作法にのっとり、東西へ白羽の矢を放つ。それを手に入れた人が破魔矢として持ち帰る風習がある。

吉浜射放弓保存会会長の内藤文夫さん(八幡町)は「弓を射るだけではなく、それに至る所作のすべて、座る、立ちあがる、など一連の作法が時間をかけて行われ、まるで静止画のようです。だから射放士(弓を射る若者)には、姿勢を維持し表情を変えないという体力と精神力が求められます。前年の射放士が翌年は指導者となるのですが、どちらも練習から本番まで、本当によくやってくれます。」と、夜の境内で「もう少し、がんばれ」と後輩に声をかけながら支える若者たちに目を細め「この体験を進学や就職のときにもぜひアピールしてほしいです。」とも語ってくれた。

今年は10月7日(土)に八幡社、8日(日)は神明社での開催。凛々しい射放士たちをぜひ応援してほしい。

“撮っておき”
の
たかはま

【第91回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、
有形・無形を問わず、
高浜市の日常の暮らしの中にある
とっておきの「お宝」を紹介します。

高浜を愛し、高浜の良さを学んで高浜でたくましく生きる未来市民の育成

「学校」「家庭」「地域」が一体となって子どもたちを育むため、毎月の「高浜市が育てていきたい子どもの姿」をこのコーナーで紹介していきます。

10月〈学習習慣 ～読書～〉

- 〈めざす年長児〉えほんをだいすきになります。
- 〈めざす小6生〉自分に合った絵本を見つけて、読書を楽しみます。
- 〈めざす中3生〉さまざまな本を読むことで、自分の世界を広げます。



高浜市が育てていきたい生活習慣・学習習慣育成プロジェクト
いきいき広場内学校経営グループ ☎52-1111 (内線311)

LEIA A
PÁGINA EM
PORTUGUÊS!

ポルトガル語は15ページ

早期配布にご協力ください。